

土木工学科卒業生の活躍

皆さんの先輩にあたる土木工学科卒業生のOB・OGは、社会の様々な分野で活躍しています。その業種は、国土政策から都市計画、まちづくり、構造物の設計など幅広く、さらに専門性に特化した仕事など多岐に渡ります。先輩達は皆、土木工学科で学んだ知識と大切な仲間のネットワークを活かし、情熱を持って日々の仕事に取り組んでいます。

小野 幹 さん

平成 25 年度 大学院修了

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門



私は、原子力規制庁に1期生で入庁して今年で7年目になります。入庁してから、主に原子力発電所に係る審査業務、放射性同位元素の取扱いを規制する法令の改正作業を担当しました。原子力規制庁は、組織が発足したばかりであり、若手職員でも重要な業務を任せられることが多いです。

担当している業務を委員・幹部へ自ら説明することがあり、仕事にやりがいを感じられます。また、様々な分野の専門性



の高い中途採用の職員が多く在籍しており、業務でわからない内容や実体験に基づいた経験を教えてもらえるため、業務に必要な専門的な知識が無くても、日々学ぶことが出来ます。

土木工学科は、構造力学、地盤工学、水理学、都市計画等の様々な分野に分かれており、講義を通じて様々な分野の中から自分の興味のある分野の研究室・就職先を選択出来る事が一番の魅力だと思います。また、私が在籍した研究室の先生方には、勉強の相談だけではなく、就職活動の相談にも親身に乗って頂いたことで、今の職場に就職することが出来ました。

現在の配属部署は大学・大学院で得られた知識を活用する機会が多い一方で、以前配属されていた部署では直接的に土木工学の知識を活用する機会はありませんでしたが、研究室での研究等を通じて得られた経験が業務の進め方や物事の考え方に活かされていると感じています。

大学・大学院時代で得られた経験を糧に、就職してからも業務を通して学びつつ、充実した日々を過ごしています。

山田 眞弘 さん

平成 27 年度 大学院修了

東京都庁 建設局 江東治水事務所 高潮工事課



東京都庁に入都して、今年で5年目になります。現在は、河川事業のうちスーパー堤防整備に係る設計・積算業務を担当しています。具体的には、工事に向けて堤防のかたちや使用する材料、工事の金額を決めていく仕事です。この仕事は、東京都が掲げる「世界一安心安全な都市」の実現に向けて、まちを浸水から守ることや、人のいのちを守るという、とても重要な業務のひとつです。東部低地帯（葛飾区、墨田



区等）と呼ばれる地域では、過去に台風により河川の水が溢れ、多くの生命や財産が被害を受けました。こうした被害を防ぐため、浸水対策として隅田川、中川等を対象に堤防の整備を進めて

います。浸水対策に加えて、まちづくりに合わせて大地震に耐えられる機能と親水性の向上を目的とした散策路等を一体的に整備するのが、「スーパー堤防」です。行政で土木の仕事をしたと思ったのは、高校時代に「ものづくりで人々の生活を豊かにしたい」という夢があり、大学で学ぶうちに土木の魅力を知ったことがきっかけです。土木工学科では都市計画、道路、河川、上下水道等の幅広い分野を基礎から応用まで学ぶことができます。

これまで下水道・河川と複数の分野で仕事をして、振り返ってみると大学・大学院の勉強が助けになっていると感じています。また現場見学やインターンシップ、外部講師による授業等を通して、様々な分野の方と出会うことが出来ます。人とのつながりは、就職活動で大きな強みになります。土木工学科で学び、素直な社会人になったみなさんに会える日を楽しみにしています。